

国際連合 経済社会局 統計部 Business Statistics Section フェロー

## 八木 雅彦

国際社会における統計行政  
～理工系の力で世界を見る～

私は現在、国際連合（国連）が掲げる「持続可能な開発目標（SDGs）」に寄与することを目的としてニューヨークにある国連統計部に派遣されています。SDGsは、2015年に国連総会で採択され、2016年から2030年までの15年間に国連加盟国が取り組むべき課題を提示した目標です。所属している部署はBSS（Business Statistics Section）というところで、SDGs関連業務も含め、「経済統計」全般を担当しています。

## 統計行政と国連？

国家公務員がなぜ国連という国際機関の統計部にいるのか、バツとイメージしづらいかもしれません。

まず「統計」の役割が何かというと、社会の構造や状況のある角度から見て形にすることだと思います。その切り口によって色々な統計がありますし、国によって産業構造も異なるので、細かく言えば必要な統計も違ってきます。しかし、各国でもその重要性は変わりませんし、根本的・理念的には、各社会が求めている統計というのはそう変わりません。そして、SDGsや昨今のコロナ禍への対応など、地球規模の取組や課題が日常的に存在する今日では、国際比較可能な統計を作成することが求められています。

そのような国際的な連携の中で、国内外の橋渡しに寄与していくことは、国家公務員として必要な役割になります。非常に複雑化している社会を、そもそもどのように統計で表していけるのかという観点からも、各国の最新の取組を共有することは、お互いにとって非常に有益です。



## 実際の業務

「経済統計」の分野の個別具体的な業務を1つご紹介します。ある国の経済構造を把握したいと思った場合、一般に「企業」の存在を把握することが肝となります。各企業がどのような産業を担っていて、どこに存在していて、どのような構造をしているのか・・・そういったことを把握することが肝要で、日本を含め各国では企業のデータベースを構築しています（もしくは構築しようとしています）。国連では、その取組の支援をするための各国共通のマニュアルの作成やそのデータベースの将来像の提示、さらには一国にとどまらない多国籍企業のデータベースを（OECDと協働しつつ）国連自身が作成するという事業を始めています。後者は、将来的には各国ともデータ連携をしていきたいという壮大なものです。このような事業のために、各国や関係する国際機関との協議を行っています。また、企業は時間とともに構造が変わっていくので、これを正確に把握すること自体が難しいのですが、日本での経験も基に、どういう対応がよいのかなと頭を悩ませ、他の職員と議論をしている日々です。

## 理工系の行政官としての学びと活躍

理工系の皆さんは、物事や事象を客観的に見ることに注力してきている経験を少なからず持っているかと思います。社会を客観視するのも同じことです。多様性を含んでいるという観点からは難易度が高い面もあるといっているのかもしれませんが、このような難しさへの挑戦も行政官の仕事の魅力だと思います。個人的にも、国際舞台のど真ん中で仕事することまでは学生時代には想像していませんでしたが、専門性を継続的に活かしながら、国内外の多様な業務に携わりつつ、自身も成長していける環境で過ごすことにはやりがいを感じられています。

広い世界に踏み出してみたいと思っている方、是非お待ちしております。